# 船舶事故調査報告書

平成２３年３月３日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決
委　　員　横　山　鐵　男（部会長）
委　　員　山　本　哲　也
委　　員　根　本　美　奈

| | |
|---|---|
| 事故種類 | 乗揚 |
| 発生日時 | 平成２２年６月４日（金）　２２時４５分ごろ |
| 発生場所 | 鹿児島県鷹島　薩摩川内市下甑島釣掛埼灯台から真方位１６７°　１０．７海里付近<br>（概位　北緯３１°　２６．９′　東経１２９°　４４．２′） |
| 事故調査の経過 | 平成２２年６月７日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか１人の地方事故調査官を指名した。<br>原因関係者から意見聴取を行った。 |
| 事実情報<br>船種船名、総トン数<br>船舶番号、船舶所有者等<br>Ｌ×Ｂ×Ｄ、船質<br>機関、出力、進水等 | <br>瀬渡船　Ｆｒｅｅ　ｓｔｙｌｅ翔、１６トン<br>２４３－２４６０４鹿児島、個人所有<br>１４．８０ｍ×４．３０ｍ×１．４８ｍ、ＦＲＰ<br>ディーゼル機関、６０１kW、平成５年４月２８日（第１回定期検査） |
| 乗組員等に関する情報 | 船長　男性　３７歳<br>一級小型船舶操縦士<br>免許登録日　平成２２年３月３０日<br>免許証交付日　平成２２年３月３１日<br>（平成２７年３月３０日まで有効） |
| 死傷者等 | 軽傷　２人（釣り客） |
| 損傷 | 全損（沈没） |
| 事故の経過 | 本船は、船長１人が乗り組み、釣り客１３人を乗せ、下甑島南方にある鷹島に磯釣り客を渡すため、同島に向けて航行中、平成２２年６月４日２２時４５分ごろ同島の岩場に乗り揚げた。<br>本船は、釣り客１１人が乗り揚げた岩場に降りたのちに自力で離礁したが、機関室から浸水したため、船長と本船に残っていた釣り客２人は、付近にいた瀬渡船に乗り移り、乗り揚げた岩場へ降ろしてもらった。<br>釣り客１人が乗り揚げた衝撃で頸部及び胸部打撲を負い、他の釣り客１人が救助にあたった瀬渡船に乗り移る際、左脚に裂傷を負った。<br>船長及び釣り客１３人は、翌５日００時５０分ごろ現場に到着した巡視船に救助され、負傷した釣り客２人は病院に搬送された。<br>漂流していた本船は、０２時３２分ごろ沈没した。 |
| 気象・海象 | 気象：天気　曇り、風向　東北東、風速　約８m/s、視界　良好<br>海象：海上平穏、潮汐　上げ潮の末期 |
| その他の事項 | 本船は、乗り揚げるまで速力を減じなかった。<br>船長は、同時刻に鷹島へ向かう瀬渡船より先に同島へ釣り客を渡そうと、事故発生の約１５～２０分前に磯釣り客へ下船準備を促していた。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 船長は、事故後、釣り客に対し、「レーダー等の画面で距離感を誤り、まだ距離があると思っていた」と言っていた。<br>船長は、レーダー等の航海計器を見て操船していた。<br>船長及び釣り客全員は、救命胴衣を着用していた。 | |
| 分析 | 乗組員等の関与<br>船体・機関等の関与<br>気象・海象の関与<br>判明した事項の解析 | あり<br>なし<br>なし<br>本船は、鷹島に向けて航行中、速力を減じることなく同島の岩場に乗り揚げたものと考えられる。<br>船長は、レーダー等の航海計器を見て操船し、同島まで距離があるものと思い込んでいたため、同島に接近していることに気付かなかった可能性があると考えられるが、船長から情報が得られなかったため、乗揚に至る状況を明らかにすることはできなかった。 |
| 原因 | 本事故は、夜間、本船が鷹島に向けて航行中、同島の岩場に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。 | |